

《講評》

車載光通信技術の導入に際して、高精度な光軸調整が必要なことからコストアップが課題の1つとなっています。自己形成光接続技術の適用によって、光部品のコスト低減が出来れば実用化に一步近きます。今回の成果報告では振動に対する耐性確認はされましたが、今後は複合環境試験(温度、湿度、振動など)を実施するなど、実車環境を考慮した研究開発を進めていただきたいと思います。